

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ピュアライズ・ナノデス 74D	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.512	△RG 0.045	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ピュアライズ・ナノデスナノンディー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：アブソリューションビーム・プラス

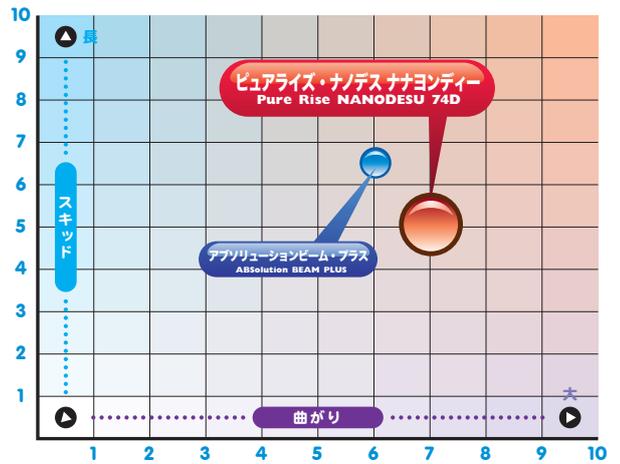
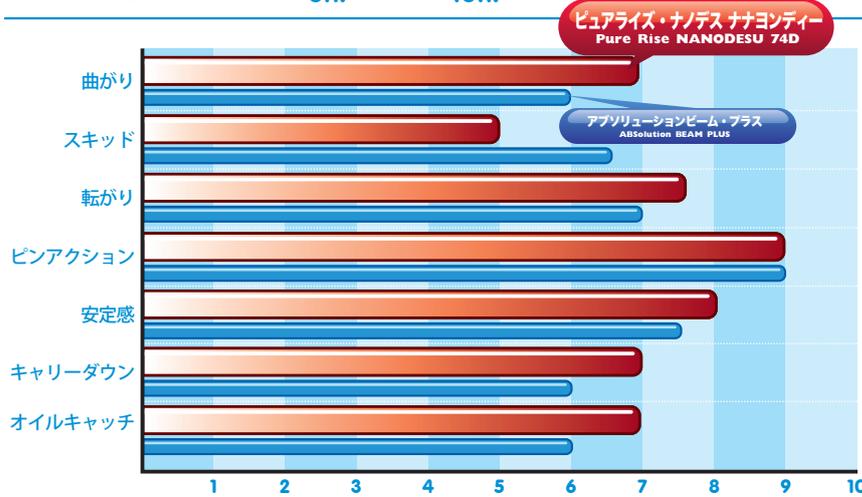
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

ボウリングボールの開発は今なお進化しており、ハイスpekな製品などが次々と発売されています。の中で昔とは用途も性能も違い、多くの方に求められる傾向にあるのが「ウレタン素材」のボールです。ウレタンボールのひと昔前のとらえ方は「コンディションが遅くなったとき」や「初級者の初めにもつボール」みたいなイメージがありましたが、今やプロをはじめとする多くのボウラーが38f以下のオイルコンディションに使用することが多く、手前もしっかりとオイルがあるコンディションで使用する機会が多くなったのも、スポーツコンディションの普及が大きな要因だと思います。ウレタン素材の大きな利点はドライエリアでの過剰反応を抑えることができること。それはハイスpekなボールが中心な現代ならではの過激なリアクションを避けられる選択肢でもあり、ウレタン素材自体にハイスpekと同等の性能を求められることが多くなったのも事実です。そのためPure Rise NANODESU 74Dには新たな可能性が凝縮させました。

今回発売するPure Rise NANODESU 74D最大の特徴は、業界でほぼ初めての設計と言われる3つの新しい構造のシステムの導入と言えます。二つは今も使われている衝撃吸収コアシステムで、ウエイトブロックとインナーコアが柔らかいこと。それにもう一つ「低架橋密度構造」と呼ばれるカバーストック自体に柔軟性を持たせ、硬度を規格ギリギリまで柔らかくしてキャッチと衝撃を吸収させたことです。この3つの衝撃吸収のシステムが連動することで、ウレタン素材でもよりピンキャリア勝負できる領域まで仕上げられたこと。特にウレタン素材を低架橋密度構造にするのは非常に難しく、日本エポナイト社の日頃の努力と匠な製法がなせる技でしょう。このトリプル構造で今までのウレタン素材のボールよりも1ランク上のボールに仕上がっています。

特記事項

低架橋密度構造で「しっかり止まる」、そしてトリプルの衝撃吸収システムでしっかりとピンを飛ばす。新製法でウレタン素材のボールでワンランク上のボールがこのPure Rise NANODESU 74Dです。